

<小学校教育の昔と今>

心理相談室アシスト 代表 岡本克己先生

- ・公認心理師、臨床心理士
- ・福井県の心理職として 28 年勤務
- ・心の医療センター@県立病院、精神保健福祉センター、児童相談所など勤務
- ・私設相談室、スクールカウンセラー、企業相談、学生相談、自治体相談
- ・自殺防止対策、心の健康講座、引きこもり対策等
- ・みんなの小学校教育の経験は？不登校の増加は好ましいのか、好ましくないのか？発達障害の増加は好ましいのか、好ましくないのか？もし今生まれていたら・・・
- ・不登校児童生徒は減少している？1945 年には小学生 4%、中学生 7.6%→2021 年には不登校小学生 1.3%、不登校中学生 5%
- ・昔は・・・終戦直後で社会は混乱、教育の必要性の認識不足、働かなくてはならない子ども達、子どもの不良行為（万引きなど）の横行、出生届未提出、身体疾患が原因
- ・神経症的な不登校（現代の不登校）が認識されたのは 1950 年代終わり：身体疾患も経済的な理由もないのに不登校
- ・1970 年代後半に不登校が一般化、1977 年 0.2%→1990 年 0.7%@中学校
- ・上記より、「不登校」は増えていると考えられる
- ・そのうち、不登校が「市民権を得る」（葛藤が目立たない・問題視されない）ように 多様な教育機会の提供等さげられる
- ・不登校児童生徒は R1 年以降急増中 H3 年 1000 人に 1 人→R3 年 50 人／1000 人
- ・発達障害とされる児童生徒 2012 年→2022 年で 1.4 倍ほど増加している 年齢が進むと減少していく（＝治る？）
- ・少年による刑法犯検挙人員（非行）は平成 15 年以降減少を続けている 成人の犯罪検挙率に近づいてきている
- ・昔は学校での集団行動や登校、睡眠時間の基準に絶対的な基準（チャイム、体温計等）があった・・・自由を犠牲にして安定を得ていた？
- ・昔の小学生時代はシンプルでわかりやすかった？多少の発達障害があっても適応しやすかった？今は複雑すぎる？
- ・現在は、ハマるように作られたゲームなどを自らコントロールすることが求められるなど、自らの判断が求められる 判断ができないと発達障害と判別される
- ・保護者にも判断が求められる 投稿か欠席か？スマホを与えるべきか？宿題をやらせるべきか？朝起こすべき？部活やスポ少は？
- ・社会が多様になったんだから、多様な生き方がある方がいい？
- ・育ち方も多様なんだから、早く気付いた方が都合が良い？

<意見交換>

- ・昔も今も、居心地の良いところに子どもは行こうとするのでは
- ・子どもの居場所がある・・・昔は家での労働、今は学校しかない？
- ・不登校は本人のみならず家族にも大きな影響を及ぼす
- ・児童生徒、家族、先生の受け入れ協力が重要では
- ・自分と相手の特性を理解し、それに対して何ができるかを考える

長年の心理職専門家として鯖江市他に関わられる岡本先生の忌憚のないご意見を頂戴しました。

答えを出すことは一筋縄にはいかない不登校や発達障がいテーマですが、時代の変化と共に考え続けることの大事さに気付かせていただきました。

岡本先生、本当にありがとうございます！

事務局で、今回の話を受けてできそうなことがあればどんどんつなげていこうと思います。どうぞよろしく願いいたします。

<活動の共有>

- ・大人の遠足（コミバスを利用し、市内の名所を巡るツアー）

第25弾は9月10日（日）10時～

第26弾は10月8日（日）9時～ 行きたい場所募集中！

- ・さばえフレイル予防指わっかの会

フレイル度測定など、8月23日／9月14日にアルプラザ鯖江にて実施されます